



～学校・家庭・地域、みんなで子どもたちを育てよう～



文責：金津 唯可
(地域学校コーディネーター)

／ こんな時だからこそ「あいさつ」を ／

現在、学校では地域の方との交流ができない状況が続いています。しかし、朝のあいさつ運動や登下校の見守りなどの子どもたちとの関わりは以前と変わらず続いています。コロナ禍で活動に制限がある中、子どもたちや地域がつながる方法は「あいさつ」です。知らない子どもにあいさつをすることは勇気がいりますが、子どもも知らない大人にあいさつすることは勇気がいるでしょう。大人から勇気を出して「おはよう」「こんにちは」と声をかけてくださると嬉しいです。

あいさつを返せない子どももあるかもしれませんが、大人が続けることによって、子どもも勇気が出てくるでしょう。たくさんのあいさつで元気のある、気持ちのいい地域になっていくといいですね。

「中浜公民館でカフェ」 心の交流

昨年末、「中浜公民館でカフェ」のクリスマス会のために、中浜小学校の有志の子どもたちと中浜民生児童委員と一緒に、たくさんの飾りとクリスマスカードを作成しました。カフェに参加した皆さんは、飾りつけをして楽しみ、そして受け取ったカードで元気をもらい、笑顔あふれる時間を過ごしました。

この様子を子どもたちと先生方に伝えるために、感謝のメッセージとカフェの様子を中浜小学校に届け、掲示していただきました。飾り作りには先生方も参加くださり、地域とのつながりに積極的に関わってくださっていることを嬉しく思いました。



実際に出会って交流することはできなくても、それぞれの思いを込めたカードやメッセージを通して心の交流をすることができました。

中浜小学校「銭太鼓クラブ」 (4～6年)

現在までの6年間、中浜小学校で銭太鼓を教えてくださいださっているのは、中浜銭太鼓同好会の皆さんです。メンバーの熊谷さんは「子どもたちと一緒に活動できて若返りました。子どもたちは覚えが早くて素晴らしい」、足立さんは「子どもたちはイキイキしていて、いつもパワーをもらっている」と楽しそうにお話してくださいました。お話を聞いていても子どもたちとメンバーの皆さんがお互いにいい刺激を与え合っていることが伝わってきました。今では子どもたちに曲選びをしてもらうほどで、信頼関係が築かれていることがわかります。

コロナ禍で去年はなかった発表の場が、今年の中浜公民館まつりで一緒に発表ができ、「発表したあとの子どもたちの顔は達成感に満ちていて、こちらも嬉しくなります」と子どもたちの成長を見守ってくださっています。

余子小学校「和の心クラブ」 (4～6年)

茶道を教えてくださいださっている阿部弘子さんには、余子小学校で現在まで7年間お世話になっています。お饅頭を食べることができるので、「お饅頭食べれるだ?」と、3年児童が声をかけてきたり、「先生は知らんだ?」と、クラブ活動に顔を出してくださる先生方に得意げに説明している子どもたちの様子が、とても楽しいとお話してくださいました。

阿部さんは、あまりこ保育園や境高校にも指導に行かれていて、境高生から「先生変わらないね。保育園で食べたお饅頭おいしかった」と声をかけられたそうです。大人は気がつかなくても、子どもたちが覚えていて声をかけてくれるのはとても嬉しいことです。余子小でお世話になった子どもたちも、大きくなったときに「阿部先生」と声をかけられるような関係になっていくことでしょう。

